

発行 社会福祉法人 唐橋福祉会
大津あいあい保育園

〒520-0854 大津市鳥居川町16-20
編集兼発行人 理事長 下村 勉

あいあい20周年!

いっそう愛され、必要とされる保育園に

園長 下村 和美



大津あいあい保育園は、このたび20歳の誕生日を迎えました。

2001年4月1日、大津市で22番目の民間保育園としてスタートを切りました。大津市内の公立保育園長をつとめていた初代園長と大津市内の公立小学校に教員として長くつとめていた理事長の強いリーダーシップのもと、20年間、大津あいあい保育園は「環境と食文化にこだわる保育」を追求してきました。

20年を振り返ってみますと、急激な少子化の一方、働く保護者の増加で保育園の需要が高まる時代でした。90名定員で出発した当園は常に定員をオーバーし、入所率が130%に迫る時もありました。

こうした地域の保育ニーズに応えるため、2015年には園舎を増築して30名の定員増を行いました。その後、認定こども園への移行を機に1号児15名の定員増を行い、現在は135名の定員で保育を行っています。周りを見ると、この20年の間に実に多くの園が誕生しました。それに伴い大津市の待機児童も解消傾向にあります。今後は、待機児童解消のための一定の役割を終えた時点で、元の定員に戻し、ゆとりのある保育、質の高い保育を進めていきたいと考えています。

またこの間、地球の環境は大きく変わりました。東日本大震災や熊本地震などの地震災害の他、台風や豪雨による水害など大きな自然災害が毎年のように発生しています。これらは地球温暖化が原因ともいわれています。当園は、これまで「環境へのこだわり」として、教材を選ぶ時はなるべく土に還るものを選び、園庭には落葉樹を多く植えて自然のテントを作るなど、自然環境を守る実践を継続してきました。少しでもCO²の排出を抑えることを目的としています。現在、2015年に国連で採択されたSDGs(持続可能な開発目標)の取り組みが少しずつ社会全体に広がってきましたが、当園もそこをめざしたいと思います。

人間もまた自然の一部です。子どもたちには、日本の豊かな四季折々の自然の中でのびのびと遊び、人と関わる心地よさを感じてほしいと願っています。安心できる大人との信頼関係を基盤に自分への自己肯定感を育み、自立性や協調性といった力を育てていければと思います。

これまで当園に関わってくださった保護者、職員、地域、支援者、そして卒園者のみなさんの思いを引き継ぎ、子どもたちに明るい未来を残していけるように、職員一同、力を注いで参ります。これまでのご支援ご協力に感謝するとともに、大津あいあい保育園がこれまで以上にみなさまに必要とされ愛される保育園となりますよう、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

コロナ禍のため、「20周年記念式典・感謝のつどい」は中止いたします。

「フロー体験」にあふれた「大津あいあい保育園」

参議院議員・元滋賀県知事 **嘉田 由紀子**



「フロー体験」とは心理的エネルギーを一つの目標に集中し行動できる状態のことで、心理学者のチクセントイハイが提唱し、「幸福」や「創造性」を求めるポジティブ心理学の代表的概念となっています。ちょうど50年前の1971年、憧れのアフリカ タンザニアの村で数ヶ月暮らしました。最大の驚きは子どもたちの目の輝きでした。電気もガスも水道もない。川で水汲み山に小枝を拾い、家畜を追って仕事に精出す子どもたち。1950年代に埼玉県の養蚕農家で私自身が経験した機械文明の少ない暮らしと共通でした。

高度経済成長期以降、ガスや水道など文明の利器がひろがり、日本の子どもたちの目から輝きが消えていました。1975年に私が子どもを身ごもった時出会ったのが「フロー体験」の概念でした。息子二人がお世話になった大津市立比叡平保育園では、森に入り虫をさがし、畑をつくり、遊び心いっぱいの保育に挑戦しました。しかし公の保育園では挫折しました。

そんな時出会ったのが大津あいあい保育園でした。園庭には、花が咲き実がなる樹木があふれ、畑にはナスやキュウリ。子どもたちが大好きな粘土トンネルの部屋。自然いっぱいの「環境と食文化」あふれる保育園。フロー体験が育つ保育園でした！布おむつ洗濯で障害者の雇用の場とする。なんと配慮の行き届いた保育園なのだろう！感動しました。下村 勉さん・京子さんご夫妻の発想でした。

京子さんは私の故郷のすぐ近く、群馬県で生まれ育ったという。子ども時代の思い出話で意気投合しました。遠慮深い関西での「関東女」。いろいろ苦労話も共通でした。理想の保育園実現のために、まさに身を粉にして働かれた京子さんが2009年1月に急逝なさいました。驚き、その挑戦あふれる人生に思いをはせました。保育実践集『からすうりの熟れる頃』は今も私の本棚で「フロー体験」という概念とともに輝いています。20周年を迎え、次の世代に確実にバトンタッチされている「大津あいあい保育園」。京子さん、天国からやすらかに見守り続けてください！

「大津あいあい保育園」20周年に寄せて

大津市保育協議会 会長

わかば保育園 園長 **西山 英男**



20周年誠におめでとうございます。『大津あいあい保育園』がこれ迄果たして来られた大津市の保育に対してのご尽力に、心から敬意を表すと共に感謝申し上げます。

近年、保育需要が増大する中、時代の要請に应运、子どもたちが、心身ともに伸びやかにすくすくと育っていける理想の保育園を実現され、地域の人々に愛され、信頼されて多くの子どもたちを育てて来られた事は、志を同じくする我々の道標として、多に励まされて来ました。

然しながら、近年の大津市の保育について考えてみますと、増加する保育需要に対応する為に多種多様な保育施設が多く開設されて量の確保は十分になされましたが、保

育の質の向上や、先達の施設が大切にしてきた障害児保育の問題などが置き去りにされてきた様に思われてなりません。少子高齢化が加速する中での今後の天津市の保育を取り巻く環境は厳しい状況になると思われます。そのような中で、大津あいあい保育園さんがこれからも、子どもたちがより良い保育環境の中で過ごせるようにと、更なるこども優先の環境づくりに舵を切る英断をされたことは、天津市の保育に携わる一員として大いに考えさせられる所があります。単に、一保育園の問題と看過できないものと思います。今後とも、大津の保育のリーダーとして、下村理事長を中心とした素晴らしい保育を推進していかれる事は大津の誇りであり、我々のめざす所でもあります。『大津あいあい保育園』の皆様のご活躍、ご健勝、ご多幸を心よりお祈り申し上げます。

大津の子どもたちの未来が輝かしいものとなりますように！！

二十歳 (はたち) のお祝い

全国私立保育連盟 常務理事

保育の家しょうなん 園長 塚本 秀一



大津あいあい保育園が創立20周年を迎えられましたことに、心よりお祝いを申し上げます。思い返せば、貴園が創設された2001年は、児童福祉法の一部改正によって、それまで保育所などの児童福祉施設で働く任用資格であった「保育士」が名称独占資格として規定されて、保育士資格の法定化が実現した年でもありました。

あいあいの20年は、新たに国家資格化された保育と共に歩んだ年月であるとも云えます。その間、当園で働く職員の子どもをお預かりいただいたことのほか、下村理事長をはじめ京子先生には大変お世話になりました。滋賀県私立保育園連盟や天津市保育協議会の活動を通して、様々ご教示いただいたことは今も私の仕事の指針となっています。

なかでも、京子先生が当園の近隣の天津市立大平保育園の園長としてお勤めになっていたときは、市の保育協議会や学区の会議などで、「保育の営み」とくに食育について先生が大切にされていることを聞かせていただく機会がありました。そうしたなか、当園の創立10周年記念式典にご臨席くださり、式後に園でお出しした昼食を召し上がって、「おいしいわ～。こんなお食事を毎日食べられる子どもたちは幸せね！」と仰ってくださったことは、光栄に思ったことと同時に嬉しかった思い出として今も心に残っています。

今日、保育を取り巻く環境は大きく変わってきています。特に少子化の波は、今後さらに大きくなるでしょう。どうか大津あいあい保育園が、これから先も天津市中南部地域における子どもと子育て家庭を支える保育園として、子どもを真ん中に保護者と共に歩む保育をさらに発展させていかれることをご祈念申し上げ、二十歳を迎えられたお祝いとさせていただきます。

下村 京子先生に教えられて

風の子保育園 理事長・名誉園長 長尾 寿



大津あいあい保育園の20年の歴史を語るためには、初代園長の下村京子さんのことにふれずにおくことはできません。私は石山中学校在職中、大平保育園で躍動する乳幼児の保育を学びました。それは園児の子育て支援にとどまらず、父母や若い保育士さんの保育力を育てるお手本でもありました。その京子さんが市職員を退職なされて石山、2001年4月1日、「大津あいあい保育園」を立ち上げられました。その集大成は、保育実践集『からすうりの熟れる頃』に詳しく「私の保育実践から」として記されています。

京子さんが力を注がれた数あるものの一つが和食を基本にした食育でした。2004年(平成16)、滋賀県私立保育園連盟は「保育園の給食は食育を耕す」というテーマで公開シンポジウムを開催しましたが、そのときパネラーとして和食の良さを若い保育者に諭すようにスライドを使用し語られていたのが印象的でした。和食というのは味覚を発達させるうえで一つの味、一つの素材を持っています。ご飯はしっかり噛んでお米の味覚を学習し、のどごしをよくするためにおつゆを一口飲み、またご飯を食べ副食を食べる、この「三角食べ」を食事マナーとして保育に定着するように指導されていました。

京子さんは、「この子らを世の光に、」という糸賀一雄さんの思想に心酔して、群馬県から近江学園に飛び込んできた熱血漢でした。保育の枠を超えた輪読会を持ち佐藤 賢さん(元大津市副市長)もその仲間の一人でした。何事につけ献身的で我が身をかえりみず全力投球する京子さんの人の良さに病魔がつけ込み、65歳の若さでお亡くなりになったことが悔やまれてなりません。

告別式の弔辞で語られた佐藤 賢さんのお話しにも京子さんのお人柄がにじんでいました。

「からすうりの熟れる頃」を繋ぐ保育を

大津あいあい保育園の歌 作詞者

元大津市立保育園長 大下 二三子

大津あいあい保育園が誕生して20年を迎えられました。心からお祝いを申し上げます。

初代園長 下村京子さんが長年の保育を通して培った理想の「宝物の保育園」です。45年間のたゆみない実践の遺稿集「からすうりの熟れる頃」は、下村京子さんが志半ばにして病に倒れ、力尽きるまで保育者であり続けた証です。12年前に完成したこのバイブルが大津あいあい保育園の歩むべき道を示し、今も支えとして大切にされています。

全国の保育者の手から手へとこの書が届くとともに評判の輪が広がっていきました。とりわけ障害児の療育や保育に向き合っている保育士や学生、食や環境にこだわって励んでいる栄養士、調理師からも行間にはじみ出るゆるぎない信念に心を打たれ、「お話を聞きたかった」「交流をさせてもらえばよかった」など無念な思いが伝わりました。

この書の価値を高めた主役は、子どもへの限りない愛をこめて綴られた文章であり、脇役は写真です。「なぜそのことに取り組んだのか」「どのような思いで子どもにかかわったのか」「どうして保育は素晴らしいのだろうか」などを確かめたいという真摯な意欲に触れて保育の尊さを確信しました。

保育の神髄に迫る書はタイトルの「からすうり」へのあこがれを思い起こします。「自然のしずくをもらったからすうりの真っ赤に熟れていく美しさに魅せられて必死になって手を伸ばしても届かず」…難しさやもどかしさがあり、楽しさもあり、あきらめられず夢中になる…保育者ならではの魂、あるいは冥利そのものです。

この崇高な保育が子どもたち、保護者、地域とともに繋いでいかれることを切に願って、大津あいあい保育園の発展をお祈り申し上げます。

2001年4月1日 「瀬田の唐橋」近くに誕生。 それから20年。

「大津あいあい保育園」の略年表 編さん中!

「あいあい20年のあゆみ」をまとめた略年表(沿革史)を編さんしています。
正確な記録として残すために、少し時間がかかりそうです。しばらくお待ちください。